

おおつきけかんけいしりょう
○大槻家関係資料

4048 点

【所有者】 一関市（一関市竹山町 7-2）
一関市博物館保管

大槻家は陸奥国磐井郡一関を出自とし、江戸時代後期以降、蘭学者で『蘭学階梯』を著した玄沢（1757～1827）、漢学者で東北戊辰戦争にも大きく関与した磐溪（1801～1878）、日本最初の近代的国語辞書である『言海』などを出版した国語学者文彦（1847～1928）を輩出した。

本資料群は、3代にわたる学者を中心に大槻家の人物が作成・授受し、またその手沢となった同家伝来の一括資料（著述稿本類 415 点、文書・記録類 2859 点、書画類 222 点、典籍類 190 点、器物類 195 点、写真 167 点）から構成される。江戸時代後期から近代における同家歴代の学問の内容を明らかにし、文化史・政治史上に価値が高い。（江戸～昭和時代・17～20 世紀）